

高知新聞

須崎工高



頑張れ須崎工生！

25、26日に黒潮町で開催された「世界津波の日」高校生サミットin黒潮」。須崎工業高の代表として参加した3年生の中山^{ひとし}緋星さん、寺川武^{たけふ}疏さんは、6月下旬に岩手県を訪れた。

学校同士で交流のある宮古工業高や、巨大堤防のあった田老地区など、東日本

土佐あさひ

大震災の被災地を視察した。

学校周辺は平地が広がり、震災前は住宅地だったとは信じられなかった。津

波は高さ10^{メートル}の堤防を超え、田老地区を破壊した。

「あぜんとして、ほとんど何も感想が出てこなかった」

須崎市の地形について、宮古工高生たちからは「土地が低

バトンを

く、安全な場所はない「常にどこに逃げるか考えて」と厳しく重い助言を受けたという。

被災地で実感した津波の恐ろしさ。「一体どうしたら…」と悩んだが、「伝えてもらったことを誰かが伝えていかなければ」と気持ちを切り替えた。

須崎工高はこれまで、避難誘導灯など防災関連のものづくりに励んできた。「自分たちの知識を、次は県内外や海外の人に教える番。バトンをもらった気持ちで

若い力が思いを込めて臨んだサミット。「諦めない」をつなぐために。

（須崎・山本 仁）